

## 事業効果の発現状況の捉え方について

&lt;担当課：都市計画課&gt;

事業名	事業の背景・必要性（目的）	事業効果の発現状況
<p>道路改築事業 (街路事業)</p> <p>3・4・3 号中央町金 矢線(三沢市)</p> <p>&lt;事業内容&gt; 道路新設 L=1,564m 計画幅員 W=6.0(16)m</p> <p>うち、 跨線橋 L=400m トンネル L=360m</p>	<p>本路線は、青い森鉄道によって東西に分断されている三沢市街地を結ぶ、重要な幹線街路である。</p> <p>整備前は、三沢駅周辺を東西に結ぶ道路は県道 1 路線、市道 2 路線であったが、市道 2 路線は踏切による平面交差のため、立体交差している県道への交通の集中が著しく、三沢駅周辺は慢性的な交通渋滞が生じていた。</p> <p>そこで、鉄道を跨ぐ跨線橋やトンネルを整備するなど新たな道路を整備することで、東西に分断されている三沢市街地内の連携強化と都市内交通の円滑化を図ったものである。</p>	<p>【想定した事業効果】(既存)</p> <p>《金銭価値化が可能な効果》</p> <p>①走行時間短縮効果 ②走行経費減少効果 ③交通事故減少効果 ④冬期間の走行速度向上による効果</p> <p>《その他の効果》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・三沢駅周辺の渋滞緩和</li> <li>・三沢市立病院へのアクセス向上</li> <li>・上北道路へのアクセス向上</li> <li>・物流の円滑化</li> </ul> <p>【事業目的の達成状況】</p> <p>《金銭価値化が可能な効果》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事業完了時の総事業費と、供用後の交通量データを用いて、今回の事後評価時(R4)の B/C を算出し、前回 H24 再評価時の B/C と比較する。</li> </ul> <p>《その他の効果》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケート調査の設問について、形式的な質問に加えて、上記の事業効果に関する設問を追加した。</li> </ul> <p>(住民用)</p> <p>問 8:三沢駅周辺の渋滞緩和 問 9:三沢市立病院へのアクセス向上 問 10:上北道路へのアクセス向上</p> <p>(企業・事業所用)</p> <p>問 8:三沢駅周辺の渋滞緩和 問 9:物流の円滑化 問 10:上北道路へのアクセス向上</p>